

TV放映内容報告

放映日 : 平成27年 5月20日 (水)
T V 局 : YBS (山梨放送)
時間帯・番組名 : 18:26～ 「ワイドニュース」

● 内容 1/2



甲府河川国道事務所は今日、ハザードマップの見直しなどを進める市町村を支援する新しいシステムの暫定導入を始めました。

今回のシステムの暫定運用は、各市町村の浸水被害に対するハザードマップの見直しが義務化されたことから始まりました。



今日は富士川町で市町村向けの説明会が行われました。

新しいシステムは、被害想定エリアにある避難所のデータと各家々の構造や階層数、世帯ごとの住所や世帯人数などの情報を一つのデータにまとめることが可能となります。



自治体はこれらのデータを活用することで、より実態に即したハザードマップの作成や精度の高い避難の呼びかけが可能になります。



また、刻々と変化する危険箇所を把握するため、移設が容易な簡易水位計を開発し、県内24カ所に設置する方針です。

システムの運用は、全国初めての試みでモデルケースとして注目を集めています。



甲府河川国道事務所 田中克直所長
「河川が氾濫した時に、どのように川が氾濫していくかというシミュレーションと共に、本当に避難所が安全な場所にあるかとか、収容人数が足りているかとか、あるいは安全に逃げる時間が確保されてるか、そういったものが目に見える形で把握できるようになる、そういうシステムになっております。」



富士川町 志村 学町長
「役場においても町内の水位がどのくらいの状態なのか監視できれば、そしてまたこれと合わせて、避難勧告・避難命令等の基準も作っていけば住民の命が守っていけると思っております。」



システムは今日から暫定運用が始まり、今後市町村がデータを入力して使い勝手などを確認した後、来年度中の本格導入を目指します。



これまで各市町村がそれぞれ検討していた避難計画の基準が一元化されて、それによって災害時にスムーズな対応が可能になるということです。

本格運用されれば、一般の方もより災害時を想定した情報を見ることが出来て、命を守る備えをすることが出来ます。